



人々の立場で取材して記事を書いたリインタビューをしたりすることで、自分の考えがさらに深まり、定着していくものと考えています。「キリスト教についての信長へのインタビュー」記事を載せる「黒船が着いたときの人々の驚きを記事にする」ことで記事の言葉は当時の生々しい感じを再現してくれます。ある児童は、「信長も絶賛！浅井長政著『戦いのススメ』百二十万部突破！（安土文庫）」などの広告を書き入れました。パロディではあっても歴史の事実に沿ったものであれば、それらを取り入れることで、さらに活動が意欲的になってきます。なお、「新聞日本史」のような日本の歴史を上手に新聞にまとめたものも発売されているので本学級では参考にしています。

読み合うことで

さらにパワーアップ！

学習新聞づくりでは、新聞ができたことで安心して活動が終了してしまふことがあります。そこで、「発表による自己評価活動」と「相互評価活動」を取り入れることにしています。出来上がった学習新聞を手に「調べて分かった事実」「調べて考えたことや感想」「新聞づくりで工夫

した点」などについて自己評価し、発表していきます。そして、掲示した新聞を各児童が付箋を手に相互評価して、「良い点」や「改善点」(なるべくよいところを見つけるよう指導)を見つけ貼っていきます。そこで自分の学習新聞をもう一度振り返

ることになります。そして、指摘された点を次の新聞づくりに生かしていく。このような活動を取り入れることで、教師側も児童の評価にずいぶん生かせるようになってきました。学習新聞は、新聞スクラップや新聞記事を活用した授業など、新聞に

触れ、新聞を活用する機会を多く持つことでさらによいものへと生まれ変わります。さまざまな活動や指導法を工夫することで、これからも「一人ひとりのよさを生かした学習新聞づくり」を目指していきたいと思えます。



t s 見出しを工夫した学習新聞



s 当時の人々の気持になって



t パソコンを使ってこんなにきれいに